

株主の皆様へ



株主の皆様におかれましては、平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

第116期第2四半期連結累計期間（平成26年12月1日～平成27年5月31日）につきましては、企業収益の改善や雇用・所得環境の改善傾向が続くなか個人消費に持ち直しの

兆しがみられるなど、国内景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。欧米諸国の財政問題など海外経済の不安要素もあり、先行き不透明な状況が続いております。

このような状況のもと、当社グループは、中期経営ビジョンとして掲げております「各事業において、コアとなる分野・製品でアジアのリーディングカンパニーになる」ことを目標に、国内およびアジア地域を中心とした拡販活動に注力するとともに、生産・販売・サービス体制の強化を継続して実施いたしました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は126億21百万円、営業利益7億66百万円、経常利益8億52百万円、四半期純利益6億78百万円となりました。

今後も引き続き、顧客満足度の向上や、各事業分野の収益力の強化を図るとともに、グループシナジー効果による事業拡大に向けた活動を推進し、企業価値の向上に努めてまいります。

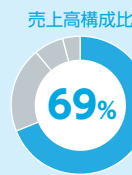
株主の皆様におかれましては、今後とも変わらず格別のご支援とご理解を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成27年7月

代表取締役社長 名倉 宏之

セグメントの状況

産業用機能フィルター・コンベア事業



売上高 86億95百万円（前年同期比 4.5%増）
営業利益 9億37百万円（前年同期比 24.6%増）

海外売上高増加に加え、第1四半期連結会計期間よりFILCON EUROPE SARLを連結の範囲に含めたことも寄与し、当事業では売上高・営業利益ともに前年同期を上回りました。

電子部材・フォトマスク事業



売上高 25億40百万円（前年同期比 22.8%増）
営業利益 39百万円（前年同期営業損失20百万円）

当事業では、既存の製品に加え太陽光発電システム設備の売上が寄与したことにより売上高が増加し、営業黒字となりました。

環境・水処理関連事業



売上高 8億79百万円（前年同期比 5.5%減）
営業利益 59百万円（前年同期比 7.6%減）

当事業では、市場が緩やかな回復傾向にあるなか製品装置の受注活動に注力したものの、売上高・営業利益ともに前年同期を下回りました。

不動産賃貸事業



売上高 5億5百万円（前年同期比 1.1%増）
営業利益 3億64百万円（前年同期比 2.5%増）

当事業では、既存の賃貸物件が順調に稼働したほか、社宅跡地を賃貸ビルとして賃貸を開始した結果、売上高・営業利益ともに増加しました。

Top Interview 社長インタビュー

日本フィルコングループは、平成28年に創業100周年を迎えます。その成長を次の100年につなげるための長期的な経営ビジョン、R&Dの戦略および技術開発戦略について、名倉社長に語っていただきました。



平成26年2月に導入した社内カンパニー制および中期経営ビジョンの進捗状況についてお聞かせください。

当社グループは、「各事業において、コアとなる分野・製品でアジアのリーディングカンパニーになる」ことを中期経営ビジョンの目標として掲げ、国内およびアジア地域を中心とした積極的な拡販活動を展開しています。

第116期第2四半期（平成26年12月1日～平成27年5月31日）は、社内カンパニー制による各カンパニー長の迅速な意思決定が促されることで生産・販売・サービスの各体制が強化され、製紙・機能ファブリックカンパニーでは東アジア、東南アジアを重点エリアとした拡販活動が堅調に推移し、ファインエレクトロニクスカンパニーの海外販売戦略も順調に進捗しています。

平成27年2月24日には、コーポレート・ガバナンスのさらなる強化を目的に、執行役員制度を導入いたしました。これにより各カンパニーでの事業収益性への責任をより明確なものとし、中期経営ビジョンでの成果を確実なものにして、次期成長戦略に結びつけていきたいと考えています。

日本フィルコンは平成28年に創立100周年を迎えますが、次の100年も成長し続ける企業グループを実現するための長期的な経営ビジョンについてお聞かせください。

これまで当社は、その社名に表された通りフィルターとコ

ンベアをコア技術に付加価値の高い産業用資材・部品を提供し、国内外の主要産業が継続的に生産活動を行う体制を維持する責任を果たしてまいりました。

次の100年におきましても、ITの進化や産業全体の構造に変化はあっても、産業用資材・部品に求められる「分離」と「搬送」という基本的な機能要求は変わらないものと考えています。当社ではこの基本機能をベースに、これまで培った技術やソリューションを既存顧客以外の産業分野に向けて水平展開し、各種素材に物理的・化学的な加工を施す技術の研鑽と適応領域の拡大を図ることで、様々なセグメントで製造に携わるお客様への供給責任を果たしていきたいと考えています。

当社グループは、「分離」と「搬送」というコア技術を基軸に、派生する関連事業に応じて各カンパニーの機能の再編成を行うことで事業収益性を担保する最適な事業ポートフォリオを構築し、グループ全体でバランスのとれた成長を実現してまいります。

今後100年の産業構造の変化を見据えた日本フィルコンのR&D戦略・技術開発戦略についてお聞かせください。

2世紀にわたって持続的な成長を確保していくためには、産業構造の変化や周辺技術の動向を的確に見極め、時代の要請を先取りした次世代製品および当社コア技術から派生する応用技術の研究開発を進めていく必要があります。

当社では、グループ全体のR&D機関として、社長直属の総合研究開発室が次世代製品およびコア技術の適用領域の研究開発を進め、経営企画室がマーケティング面から補佐しています。新たな領域の拡大および次世代製品の開発は、総合研究開発室にて基礎的な研究や適用技術の確認が行われ、専門性を持つ各カンパニーや子会社が量産段階での設計や生

産適用開発、既存事業の応用開発を受け持つかたちとなります。プール本体および水処理装置等の販売を行う子会社（株）アクアプロダクトのろ過装置一体型プール「スマートアクア」もこうした経緯で開発されています。

次世代開発のテーマとなる領域として、世界的にもニーズが高まる環境関連分野に着目しています。再生可能エネルギー装置や循環型システムなどの環境関連設備に「分離」と「搬送」の当社コア技術が適用できる領域は広く、当社は同分野に集中して次世代製品・応用技術の開発に取り組むとともに、既存リソースの最適活用や新規事業の創出、M&A戦略とも連動させて各事業の高付加価値化を図り、事業領域の開拓と拡大を加速していきたいと考えています。

次世代製品として総合研究開発室が開発した「自立型水素発電・飲料水供給システム」についてお聞かせください。

総合研究開発室では、環境関連分野での次世代製品「自立型水素発電・飲料水供給システム」を開発し、これを「自治体総合フェア2015」（平成27年5月／東京ビッグサイト）に出展したところ、たいへんな注目を集めました。

同システムは、再生可能エネルギーを活用して自立稼働で飲料水と電源を供給するシステムです。太陽光発電により水を電気分解し水素を発生させる「ミニ水素ステーション」と、燃料電池を利用して防火水槽・プールなどの水をろ過して飲用可能な生活用水を作る「可搬型ろ過ステーション」で構成され、外部からのエネルギーに頼らずに非常用電力と水の供給が可能になることから、学校や公共施設の防災用蓄電貯水設備として幅広い需要が見込めます。

当社では、同システムを含め、今後も環境関連分野の次世代製品の開発を積極化し、「社会に認知される質の高い企業グループ」として持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

財務ハイライト

●●連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第2四半期末 平成27年5月31日現在	前期末 平成26年11月30日現在
流動資産	16,891	14,772
固定資産	18,357	17,100
流動負債・固定負債	18,404	16,749
純資産	16,844	15,123
総資産	35,249	31,872

(注) 記載金額は、百万円未満の数字を切り捨てて表示しております。

●●連結損益計算書

(単位：百万円)

	当第2四半期 平成26年12月1日から 平成27年5月31日まで	前第2四半期 平成25年12月1日から 平成26年5月31日まで
売上高	12,621	11,820
売上総利益	4,470	4,123
営業利益	766	603
経常利益	852	660
四半期純利益	678	502

(注) 記載金額は、百万円未満の数字を切り捨てて表示しております。

●●連結キャッシュ・フロー計算書

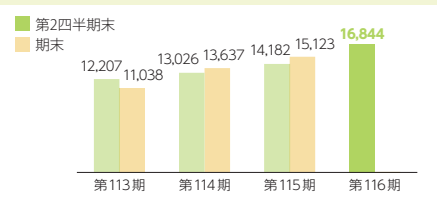
(単位：百万円)

	当第2四半期 平成26年12月1日から 平成27年5月31日まで	前第2四半期 平成25年12月1日から 平成26年5月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	397	952
投資活動によるキャッシュ・フロー	△959	△487
財務活動によるキャッシュ・フロー	937	△1,248
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,705	2,245

(注) 記載金額は、百万円未満の数字を切り捨てて表示しております。

純資産

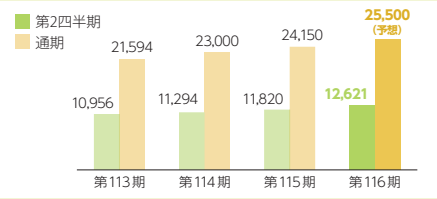
(単位：百万円)



POINT 純資産合計は、前期末に比べて17億21百万円増加し、168億44百万円となりました。これは、主として四半期純利益6億78百万円の計上による利益剰余金の増加であります。

売上高

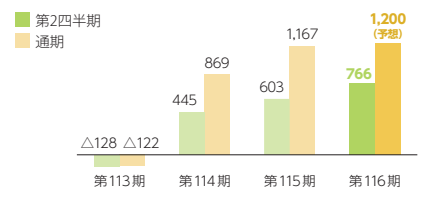
(単位：百万円)



POINT 国内およびアジア地域を中心とした拡販活動に注力した結果、非連結子会社2社を連結の範囲に含めたことも寄与し、売上高は126億21百万円(前年同期比6.8%増)となりました。

営業損益

(単位：百万円)



POINT 営業利益は、売上高の増加と売上原価率の改善により、7億66百万円(前年同期比27.0%増)となりました。

会社概要

(平成27年5月31日現在)

商号 日本フィルコン株式会社
本店所在地 東京都稲城市大丸2220番地
設立年月日 昭和11年3月18日(創業大正5年)
資本金 26億85百万円
上場取引所 東京証券取引所(市場第一部)

主要な製造、販売品目

紙・パルプ抄造用網、各種工業用特殊網等
電子部材、フォトマスク製品等
プール本体および水処理装置、その他環境関連製品等
店舗・駐車場の賃貸等

主要な事業所等

当社の主要な事業所

本社・東京事業所(東京都稲城市) 静岡事業所(静岡県富士市)
北海道営業所(北海道千歳市) 大阪営業所(大阪府吹田市)
上海事務所(中華人民共和国上海市)

子会社

Filcon America, Inc. (アメリカ合衆国オレゴン州)
FILCON FABRICS & TECHNOLOGY CO., LTD. (タイ王国プラチンブリ県)
FILCON EUROPE SARL (フランス共和国バ・ラン県)
関西金網株式会社(本社 大阪府大阪市)
Kansai U.S.A. Corporation (アメリカ合衆国テキサス州)
Siam Wire Netting Co., Ltd. (タイ王国ランブーン県)
TMA CORPORATION PTY LTD (オーストラリア連邦西オーストラリア州)
株式会社アクアプロダクト(本社 東京都千代田区)
関西金属網科技(昆山)有限公司(中華人民共和国江蘇省)
エスディアイ・エレクトロニクス・ジャパン株式会社(東京都稲城市)

当社従業員数473名 企業グループ従業員数1,187名

取締役・監査役 (平成27年5月31日現在)

代表取締役社長	名倉宏之
常務取締役	松木義夫
取締役	齋藤芳治
取締役	結城英顕
取締役	松下篤史
社外取締役	片山洋一
常勤監査役	内田勝
社外監査役	犬塚淳
社外監査役	村山周平

株式の状況

(平成27年5月31日現在)

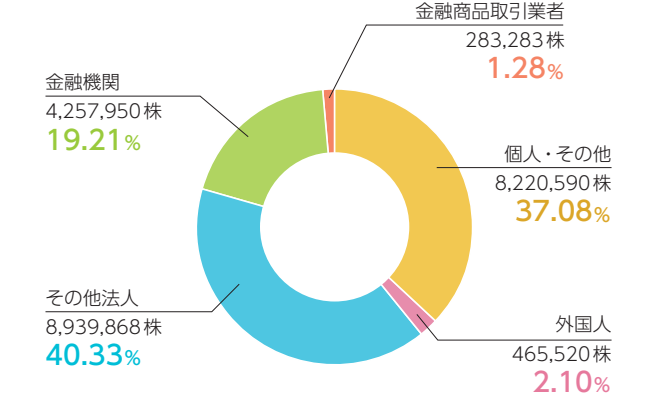
発行可能株式総数	80,000,000株
発行済株式の総数	22,167,211株
株主数	11,550名

大株主

株主名	持株数(百株)	持株比率(%)
王子ホールディングス株式会社	27,001	12.20
大王製紙株式会社	18,165	8.21
日本製紙株式会社	15,581	7.04
日本フィルコングループ従業員持株会	14,771	6.67
三菱UFJ信託銀行株式会社	10,230	4.62
いわき大王製紙株式会社	4,740	2.14
竹田昌弘	4,027	1.82
株式会社みずほ銀行	4,000	1.81
第一生命保険株式会社	3,950	1.78
大津板紙株式会社	3,820	1.73

(注) 1. 持株比率は自己株式(35,626株)を控除して計算しております。
2. 百株未満は切り捨てて表示しております。

所有者別持株比率



株主メモ

事業年度	12月1日から翌年11月30日まで
配当金の基準日	期末配当金 11月30日 なお、中間配当を実施する場合の基準日は、5月31日。
定時株主総会	毎年2月
議決権の基準日	定時株主総会については、11月30日。 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定める。
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-232-711 (フリーダイヤル)
単元株式数	100株
公告方法	電子公告により、当社のホームページ http://www.filcon.co.jp/ に掲載いたします。ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

株式に関するお問合せ先		
	証券会社にお持ちの場合	特別口座の場合
お問合せ先	お取引の証券会社になります。	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 電話 0120-232-711 (フリーダイヤル) URL http://www.tr.mufig.jp/daikou/
お取扱店		三菱UFJ信託銀行株式会社 本店
ご注意	未払配当金の支払、支払明細発行については、株主名簿管理人までお問合せください。	単元未満株式の買取以外の株式売買はできません。 (特別口座に記録したままでは、株式を証券取引所で売買することはできません。)

(注) 「特別口座」とは、株券電子化実施までに証券会社等を通じて証券保管振替機構に預託されなかった株式について、平成21年1月の株券電子化制度への移行時に、株主様の権利を確保するため、特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行株式会社)に株主名簿上の株主名義で開設された口座です。

株主優待制度 毎年11月末現在の株主様へ ワインを贈呈

ご所有株式100株以上 ≫ 1,000円相当品

ご所有株式1,000株以上 ≫ 2,000円相当品

※年1度 毎年3月下旬の発送を予定しております。

日本フィルコン株式会社

〒206-8577 東京都稲城市大丸2220番地
TEL 042 (377) 5711 (代表) FAX 042 (377) 5714
<http://www.filcon.co.jp/>



第116期 第2四半期

株主通信

平成26年12月1日から平成27年5月31日まで

